

平和が丘防災タイムズ 第30号

平和が丘学区防災委員会

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から6年が経過しました。今も多くの方々が災害によって被害を受けながらも、復興に向けて懸命に頑張っておられます。

今回の防災タイムズ第30号では、東日本大震災などの災害を教訓に、日頃からの一人ひとりの防災対策「自助」について、その一部をご紹介します。

○災害時に命を守る一人一人の防災対策（「政府広報オンライン」より転載）

地震や津波などの自然災害は、時として、想像を超える力で襲ってきます。しかし、日頃から防災対策をしておくことで、被害を少なくすることはできます。防災対策で大切なことは、自分の身の安全を守るために一人一人が取り組む「自助」。その一部を以下に紹介します。

(1) 家の中の安全対策

大地震が発生したときには、「家具は必ず倒れるもの」と考えて、防災対策を講じておく必要があります。

◇タンス：床側をストッパーなどで固定し、天井側はポール式器具で固定する。

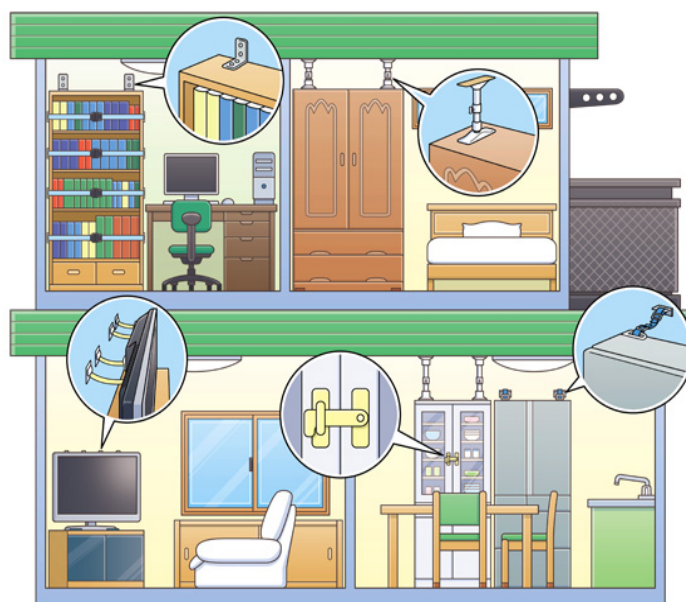
◇食器棚：L字型金具やワイヤーなどで壁に固定し、開き戸には開かないように留め金を付ける。ガラスにはガラス飛散防止フィルムを張る。

◇本棚：L字型金具やワイヤーなどで壁に固定し、重い本は下の段に。本棚の端の硬い部分にひもやベルトなどを取り付けて、本が飛び出さないようにしておく。

◇テレビ：粘着マットを敷いて転倒を防ぐとともに、機器の裏側をワイヤーなどで壁やテレビボードに固定する。

◇冷蔵庫：裏側をワイヤーなどで壁に固定する。

◇窓ガラス：合わせガラスに替えたり、飛散防止フィルムを張ったりする。カーテンを閉めておくことでも室内への飛散防止に効果があります。また、割れたガラスが飛散した部屋でも安全に歩けるように、スリッパなどを近くに置いておく。



(2) 地震が発生したときの、身の守り方

気象庁の「緊急地震速報」を活用することによって、強い揺れが来ることを直前にキャッチし、身の安全を守る行動をとることができます。

◇家の中：座布団などで頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。あわてて外へ飛び出さない。もし、火が発生した場合には可能ならば火の始末、火元から離れている場合は無理して火元に近づかない。

◇商業施設など：施設の誘導係員の指示に従う。頭を保護し、揺れに備えて身構える。あわてて出口・階段などに殺到しない。ガラス製の陳列棚や吊り下がっている照明などの下から離れる。

◇エレベーター：最寄りの階で停止させ、速やかにエレベーターから降りる。

- ◇街にいるとき：ブロック塀や自動販売機など倒れてきそうなものから離れる。看板、割れた窓ガラスの破片が落下することがあるので建物の周囲から急いで離れる。
- ◇自動車運転中：あわててスピードを落とさず、ハザードランプを点灯させながら徐行し、周りの車に注意を促す。周囲の状況を確認して道路左側に停車させる。エンジンを止め揺れが収まるまで車内で待ち、揺れが収まったら、ドアをロックせずキーをつけたまま車外に出て、安全な場所へ避難する。
- ◇電車・バスに乗車中：つり革、手すりなどにしっかりつかまり、車外に投げ出されないように気を付けるとともに、車掌または誘導員の指示に従う。

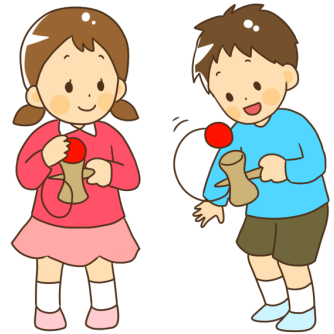
○学童保育所ペガサスクラブの役割と活動

ペガサスクラブは平和が丘小・蓬来小の児童が通う学童保育所で、2016年度は28名が在籍しています。

学童保育所とは、「ただいま！」と帰れば「おかえり！」と迎えてくれる大人と、いつもの仲間たちがいる「放課後のおうち」です。名古屋市の助成を受け、地域と保護者が運営する児童福祉事業です。

ペガサスクラブでは、『自己肯定感をもち、自分のことが好きだと思える子ども』『失敗しても自分で考えることのできる「生きる力」を持った子ども』を目指し、指導員が子どもたちの心に寄り添う保育を行っています。日常の保育の中にコマ・けん玉など昔ながらの遊びを取り入れ、親子キャンプ・夏祭り・もちつきなどのイベントも行っています。

保育室は平和が丘コミセン南隣どんぐり広場内にあります。入所児童は随時募集しておりますので、772-4594（指導員：鈴木・今井）までお問合せください。



□防災お役立ち情報（家具転倒防止伸縮棒）

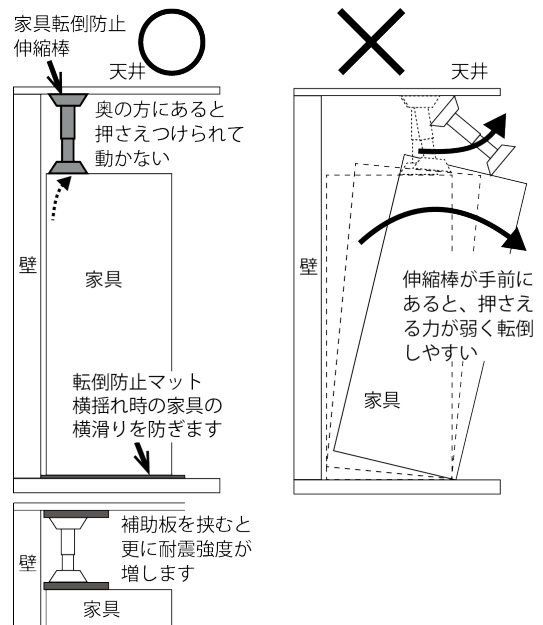
「転倒防止伸縮棒」とは、地震時に家具の転倒を防止するため、天井との間に挟む突っ張り棒のことですが、その使い方は正しいですか？

転倒防止伸縮棒は、家具と天井の間の手前側に設置してしまうと、地震が発生した時に突っ張る力が弱くなり効果を発揮できません。必ず奥（壁側）の両端（家具の両側の側板）に設置しましょう。

転倒防止伸縮棒の両側に補助板を挟み込むとさらに強度が増します。

また、床に転倒防止マットを敷いておくと、横揺れ時に家具が横滑りすることを防ぎます。

ただし、せっかく奥の方や補助板を設置しても、天井そのものの強度が弱い（天井を手で押すとたわむ等）と、これも効果が発揮できません。その時はL型金具で家具と壁を直接固定するなど、突っ張り棒以外の固定器具を検討した方がよさそうです。



<編集後記>

2月12日(日)に防災委員4名が名東区主催の避難所運営リーダー講座(3回目)を受講してきました。実施訓練で体育館の床に寝転んだ際、床からじわじわと伝わる冷気に、避難用品として毛布や保温シートの重要性をあらためて認識しました。

(編集 前島)

